

平成 31 年度 推薦入学試験問題

情報学群
知識情報・図書館学類

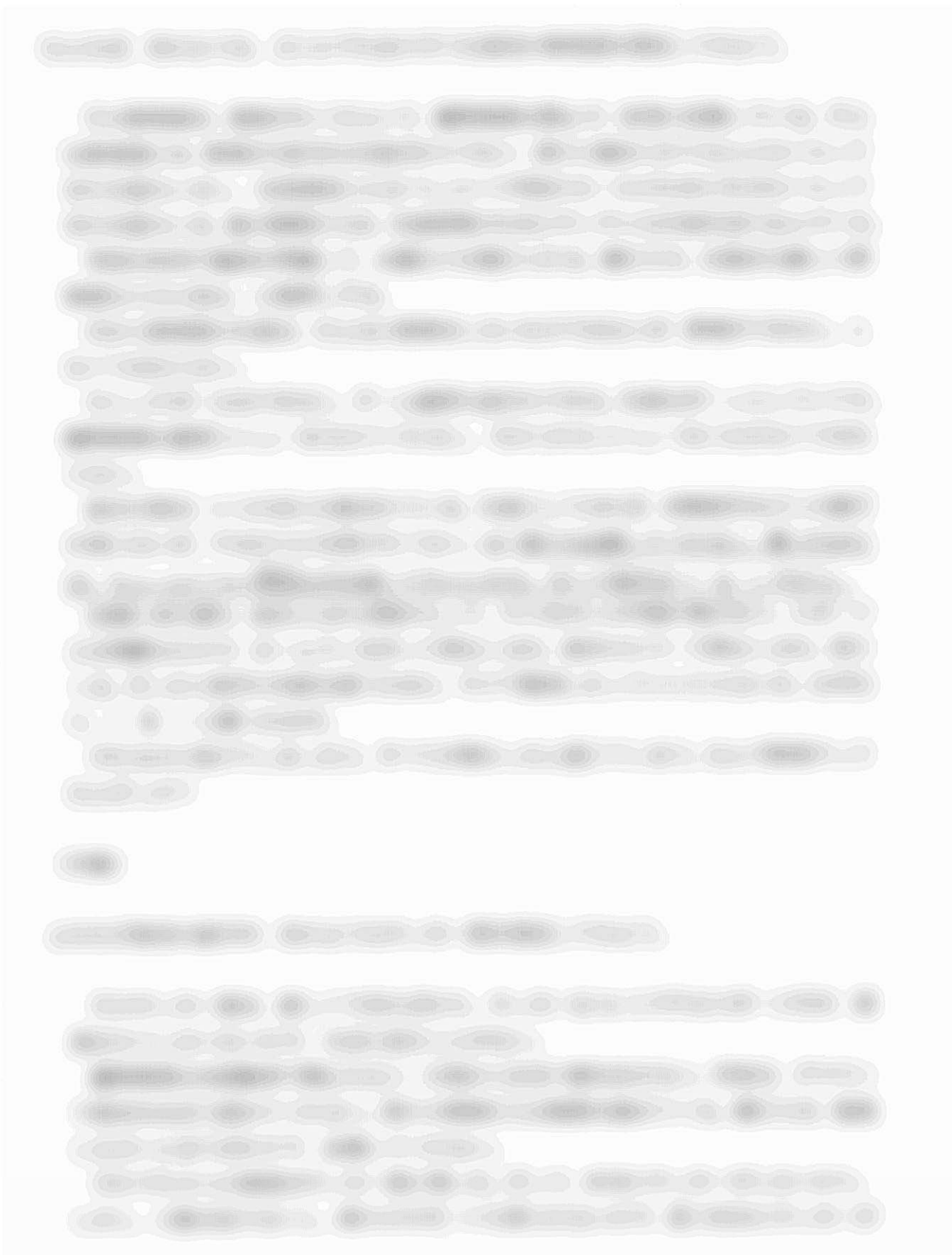
小論文

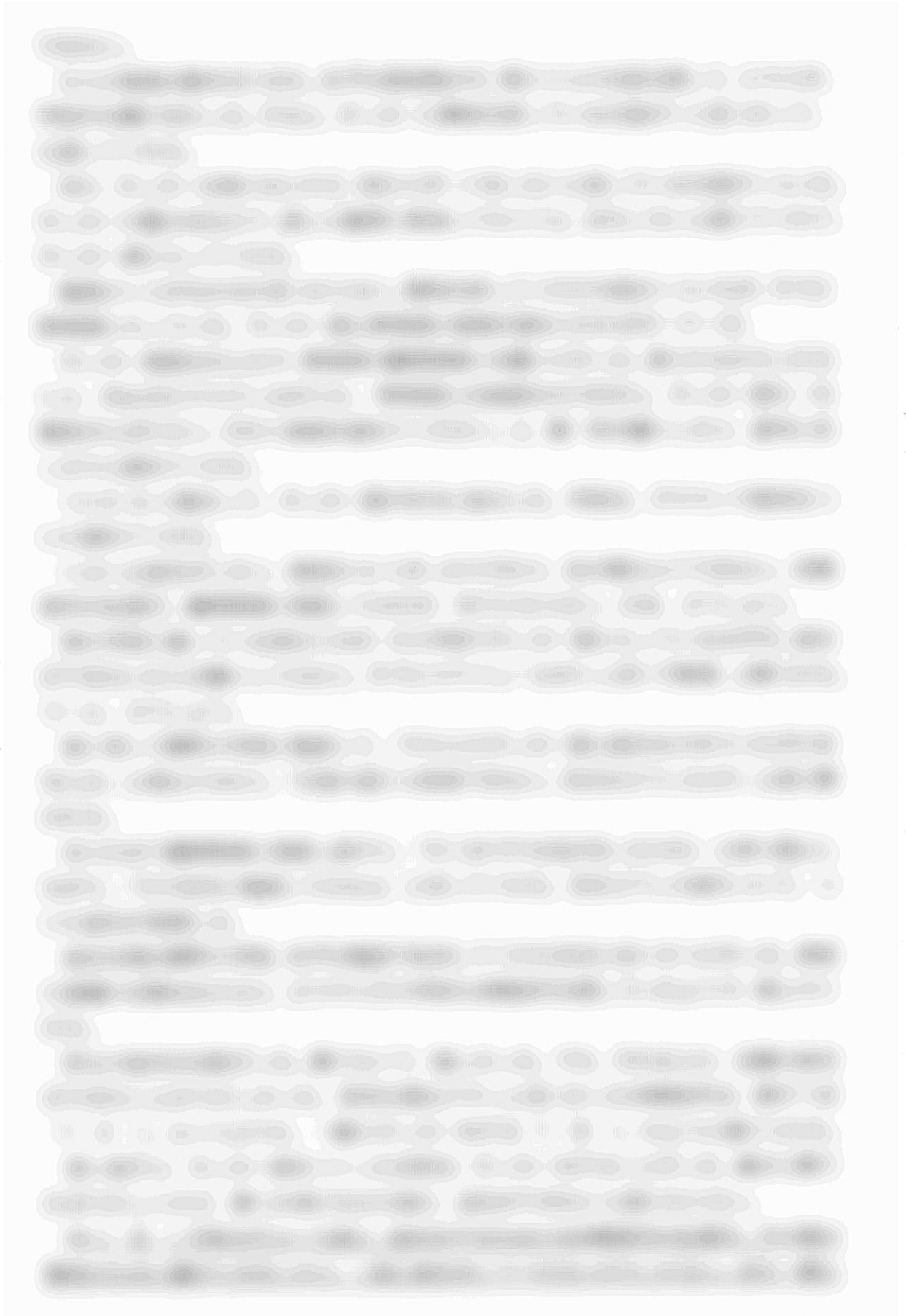
試験時間 10:00 ～ 11:30

注意事項

- ・ 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ・ 受験番号、氏名を解答用紙の所定の欄に記入してください。
- ・ この問題冊子は全部で 6 ページ（表紙を除く）です。
- ・ 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- ・ 試験中に問題の脱落、解答用紙の汚れ等に気づいた場合には、手を上げて監督員に知らせてください。
- ・ 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は各自持ち帰ってください。

問題1 部活動について論じた次の文章を読んで、問1～問3に答えなさい。





出典 中澤篤史著『そろそろ、部活のこれからを話ませんか 未来のための部活講義』
大月書店 2017（抜粋のうえ、一部変更）

問1 (A) ～ (E) にふさわしい語句を入れなさい。同じ語句を複数回使っても構いません。

問2 ①と②は、問題文における野球部とサッカー部の違いについて述べた文です。2つの文が同じ内容を表すように、②の (F) と (G) にふさわしい語句を本文中から抜き出しなさい。

① 野球部は、恵まれた環境にあるが、部員の情熱が足りない。サッカー部は、部員の情熱はあるが、環境に恵まれていない。

② 野球部は、(F) は十分だが、部員の (G) が足りない。サッカー部は、部員の (G) は十分だが、(F) が足りない。

問3 下線部 (a)、(b) のような対立的な心情を引き起こすような二つの対比的な具体例（具体例は部活の例に限らなくても良い）を挙げ、その例がどのような対比的な心情を引き起こすかを 600 字以内で分かりやすく書きなさい。

なお、これらの設問は、理解力・思考力・表現力・独創性などの能力を総合的に見ようとするものであり、思想・信条等を問うものではありません。

問題2 次の文章を読んで、問1～問3 に答えなさい。

Notes

1 This formulation is largely due to William Lycan.

(注)

*1 inference : 推論

*2 hypothesis/ hypotheses : 仮説

*3 deliberate : よく考えられた

*4 perceptual : 知覚的な

*5 disparities : 不均衡、不釣り合い

*6 HUNNY : Honey (*Winnie-the-Pooh* における意図的なスペルミス)

*7 colour : color と同義

*8 lick : なめること

*9 substance : 物質

*10 substantiate : 具体化する

*11 crucial : 決定的な

出典 John R. Josephson and Susan G. Josephson 編. *Abductive inference: computation, philosophy, technology*. Cambridge University Press, 1994. (抜粋のうえ、一部変更)

問1 下線部 (a) を読み、abduction とはどのような推論かを 40 字以内で説明しなさい。

問2 枠 (c) の事例において、枠 (b) 内で定義されている D、H、other hypothesis を本文内からそれぞれ 10 単語以内で抜き出ささい。なお、D は 2 つあります。

問3 以下の 3 つの記述のうち、どれが abduction の例であるか選び、それを選んだ理由を 150 字以内で述べなさい。

例1：全ての鉄は磁石に引き寄せられる。この金属は鉄だ。だから、この金属は磁石に引き寄せられるだろう。

例2：このきれいな花にはトゲがある。あのきれいな花にもトゲがある。だから、きれいな花にはトゲがある。

例3：ガソリンメーターが 0 に近づいている。最近整備した時にはガソリンメーターに不具合はなかった。だから、この車のガソリンはもうすぐなくなるだろう。

なお、これらの設問は、理解力・思考力・表現力・独創性などの能力を総合的に見ようとするものであり、思想・信条等を問うものではありません。